

# インターンシップに向けたキャリア教育科目の 取り組みについての一考察

## Approach to Career Education of the Internship Program

金 岡 敬 子  
Keiko KANAOKA

キーワード：キャリア教育、オールインターンシップ、事前学習、教育効果

### はじめに

本稿の目的は、大学等におけるキャリア教育推進の中でインターンシップの事前学習として新たに開講したキャリア教育科目における取り組みについての事例研究である。

高等教育機関では、文部科学省（2011）が大学設置基準を改正したことにより、教育課程において生涯を通じた継続的な就業力のキャリア育成をめざす教育に取り組むことが重要な位置づけとなっている。キャリア教育は、学生のキャリア形成に有用な効果をあげる手段として、今後ますます大学等での取り組みの質が問われる。そのためにも、大学生のキャリアに関する意欲・態度・能力向上に向けて、インターンシップの事前授業や事後検証等で得た結果を今後に繋げていくことが課題である。

### 1. 日本におけるインターンシップの現状

文部科学省（2017）は、インターンシップのさらなる充実に向けて、2018年からインターンシップの届け出制度をスタートさせた。その背景には、大学等において単位認定を行うインターンシップへの学生参加率が国際的にみても特に低いことへの懸念からであり、今後国内のインターンシップの量的拡大はもちろん、質的拡大に課題があることが挙げられている。

今後の大学改革や地方創生の動きなどを見据え、適正なインターンシップの普及が重要であることから、正規の教育課程としてのインターンシップの推進に向けた方策として創設されたのがインターンシップの届け出制度である。

今後、正規の教育科目としてインターンシップに求められる要件としては、①就業体験を伴うものであること、②正規の教育課程の中に位置付けられていること、③事前・事後学習・モニタリングなど適切な学生指導の時間が設けられていること、④実施後の教育的効果を測定する仕組みが整備されていること、⑤原則としてインターンシップの実施期間が5日以上であることが挙げられている。ワンデーインターンシップなどの就業体験を伴わないプログラムは、インターンシップの実態に合っていないことから、インターンシップと称することについて今後留意する必要があると述べられている。

## 2. インターンシップの目的

インターンシップは、学生のキャリア発達を促すために必要なキャリア教育として今後ますます推進されていく方向にある。大学等では、学生が職業に従事するために必要な知識、技術、能力や態度等を学生時代に育てる必要があり、そのためにもインターンシップ等を通して、就業体験によるキャリア意識を育成していくことが重要な課題である。

就業体験では、仕事の実際を知ることや職業観の育成のため、企業における業務への従事や課題の解決等の体験ができる場に参加することが必要な要素として挙げられている。

しかしながら、インターンシップによる就業体験だけでは、学生のキャリア形成に有用な効果を与えることは難しい。インターンシップの教育効果をあげるため、キャリア教育科目による事前学習の受講による準備や事後学習による検証も含めたキャリア教育プログラムを推進することが、学生のキャリア意識を高め育成に向けた取り組みとなる。

## 3. キャリア演習Ⅲの教育目的

四天王寺大学経営学部（以下、本学部）では、2016年度入学生より3回生の夏休み期間中に必修科目として就業体験に参加するオールインターンシップが導入された。それに先立ち1年次よりプレインターンシップも推進し、学生も積極的に参加しているが、オールインターンシップの事前学習として2017年度冬学期に新たに開講したのが「キャリア演習Ⅲ」の授業である。この授業は、3回生夏休みに5日間以上の就業体験に参加することが義務付けられており、その事前学習として必要なマナーや言葉遣い等の基本学習、企業研究等と共に仕事の理解をすることを目的とした。また、インターンシップ参加前に育成する必要がある表現力・判断力の向上にも力を入れて授業計画を立て、2回生冬学期半期15回の授業を実施した。

	1年次	2年次	3年次夏学期	夏季休暇中	3年次冬学期	4年次
科目名		キャリア演習Ⅲ	インターンシップⅠ	インターンシップⅡ		
学生の動向		大阪労働協会 キャリアセンター との連携による プレインターン シップの実施 → 事前 学習	事前学習 マッチング 就業先決定 事前訪問 → 5日間以上の 就業体験	→ 事後学習 事後研修会 報告会	→ 就職に向けて 企業研究・ 就職活動	
単位数 (必修科)		2単位	2単位	2単位		

図1 インターンシップに向けての学部独自の授業の流れ

### 3-1 キャリア演習Ⅲの授業内容

授業計画では、次の内容の理解と知識・技術を習得することを目的として、授業を進めていった。①ビジネスマナーの基本理解、②ビジネス社会の常識（挨拶、話し方、聞き方、お辞儀の基本）、③言葉遣い（謙譲語・尊敬語、間違えやすい敬語表現）、④指示の受け方・報告の仕

方、⑤電話対応のマナー、⑥会社訪問のマナー、⑦ビジネス文書の知識、⑧会社訪問での注意事項等に加え、グループワークや1分間スピーチを全員の前で行う等、話す・聞く・考えることへの苦手意識の克服も授業内容に含んで実施した。

この授業は、学生一人ひとりの状況を把握しながら、きめ細かい指導を行う必要がある為、本学部2専攻（公共経営専攻、企業経営専攻）を専攻ごとに分けて実施した。さらに、1クラスの人数が多すぎると授業での指導が行き届かず事前学習としての役割が薄れるため、企業経営専攻の学生120名を2クラスに分けて授業を実施した。公共経営専攻は1クラス、と企業経営専攻を2クラスに分けて3クラス体制での授業となった。

### (1) 公共経営専攻の授業内容

公共経営専攻は、公務員を目指す学生が学ぶクラスであり、3年生ではインターンシップが必修科目となっていない。そのため、授業では「公務員」に関する情報提供もできる場となるよう工夫をして授業を進めた。

その一つが、市役所のインターンシップに夏季休暇中に参加した上級生からの報告会の実施である。インターンシップでの就業内容について報告と質疑応答の時間を設け、学生目線で職場での働き方についての理解を深める機会とした。

また、公務員の仕事理解については、実際に公務員として勤務をされている市役所の職員の方を招聘する機会を設けた。市役所での仕事内容や市民との関わり方、仕事への取り組み方に加え、公務員試験受験対策のために必要な情報提供も受ける機会となり、学生達も積極的に質問をすることで将来公務員として働くイメージが明確になったようである。

公共経営専攻のクラスでは、仕事をするうえで必要なビジネスの基本や一般常識であるマナーなどの学びと共に、敬語の遣い方の実践として名刺交換や固定電話を使用して電話対応の実践練習も何度か行う機会があった。また、ビジネス文書の書き方、スケジュール管理についての指導とともに封筒の書き方や礼状の書き方の実践演習も行ったが、学生一人ひとりがそれぞれの課題に真剣に取り組んでいた。

特に、電話対応の実践演習では、ただ単に受話器を通して話すということではなく、正しい敬語表現を使って何度か対応を繰り返すことで、正しい敬語表現による電話での話し方も身に付く良い機会となっていた。公共経営専攻の学生は、日頃専門教育の学びと共に公務員試験に



市役所で就業体験をした学生による体験談  
古墳についての説明



藤井寺市役所職員による  
仕事についての講話

合格するための知識の習得に関する授業科目が多い。その中で、実際のビジネス現場を想定した様々なルールやマナーを学んだことで、社会人になるための意識や公務員を目指す意欲喚起につながるきっかけにもなっていた。

## (2) 企業経営専攻の授業内容

企業経営専攻は、3回生でインターンシップに参加し就業体験をすることが必修科目となっている。この授業では、就業体験に参加する前の事前学習の時間として、ビジネスマナーの基本、敬語表現、ビジネス文書の書き方などについて学んだうえで、就業体験の心構えについても学ぶ大切な時間となるよう授業運営を行った。また、3回生の6月には、ビジネス実務の基本理解とその知識の習得状況を確認するため、公益財団法人実務技能検定協会のビジネス実務マナー検定3級を全員が受験することを義務付けている。そのため毎回の授業では、検定試験受験準備として、授業の始め20分程度の時間を検定対策の時間にあてた。

インターンシップ先での就業体験では、一人ひとりが積極的にコミュニケーションを取ることが大切であり、そのことが業種理解や仕事理解の促進に繋がる。しかし、授業の第1回目でアンケート調査をした結果、人前で話すことが苦手な学生やこれまであまり人前で話したことがない学生が全体の8割を超えており、コミュニケーションの第一歩として、表現力向上に向けた対策も必要であった。その解決策の第一歩として、受講生全員が一人ずつ各クラス約60名の前で1分間スピーチを実施することも課題とした。この1分間スピーチを何とか避けて通りたいたいと当日欠席をした学生もいたが、16回目に補講を行い、最終的には全員が1分間スピーチを行うことができた。

1分間スピーチについては、実施後の感想レポートによると、「人前で話すことに抵抗があったが、実際に話す機会があったことで各自の表現力の問題点を確認でき、今後の表現力向上に努めたい」との前向きな意見が多かった。学生が経験不足による「できない」から「やればできる」状況を少しでも多く体験することで、行動を起こすことに対する抵抗感を払拭し、自信へと繋がっていく環境を整えることも大切である。

インターンシップに実際に参加した際の具体的な内容についての情報も、この授業でインターンシップに参加する前の情報発信の場として授業時間を活用した。具体的には、夏季休暇中に就業体験をした先輩からの情報を得る機会として、体験報告会を開催した。在学生からの情報を得る機会だけではなく、卒業生も招聘して社会人としての働く姿勢や人間関係構築についてアドバイスを受ける機会を設けた。在学生からのインターンシップ体験談や社会経験のある卒業生からの情報提供を受ける機会が2回生の事前学習の時点であったことで、仕事に対する理解度が深まり、就業体験に対する知識が身近になったようである。

授業ではカリキュラムに沿って授業内容を進めていき、ビジネスマナーや働く姿勢についての理解の定着が少しずつ高まってきたところで、講義内容のまとめとしてビジネス敬語の使い方や社会人の常識に関するDVDを観る機会を作った。学生は、講義内容の理解と共に先輩学生からの報告会、さらに卒業生の体験談を聞いたうえでの視聴覚教材を観ることで仕事に対するイメージをしっかりと自分のこととして理解し、各自の改善点や現状把握を深めたようである。

### 3-2 キャリア演習Ⅲの受講に求められる学生の姿勢

キャリア演習Ⅲの事前授業で、インターンシップの就業体験に向けて基本的な事柄についての習得と理解は必須事項である。具体的には、毎回の授業開始時の挨拶から始まり、遅刻・欠席に関する指導の徹底や提出物の出し忘れや出し遅れへの対応、日々の生活の中で自己管理を怠らないようにすることの大切さ等について徹底することを確認しながら進めていった。

この授業は、2回生冬学期に開講する必修科目であり、2回生全員が受講する。3回生でスタートする「インターンシップⅠ」の授業に向けての準備科目でもあり、「インターンシップⅡ」で就業体験に参加した結果を就職活動という次のステップに繋げるためにも大切な事前授業としての役割がある。さらに、インターンシップに向けた授業内容に加え、関連するビジネス系の検定試験も全員受験をすることを前提で進めているため、学生が目的意識を持ってしっかりと理解・実践をしながら受講することが必要不可欠である。

文部科学省（2017）によると学生にとってのインターンシップの意義として、①業種理解・仕事理解の促進、②職業意識の育成・向上、③学習意欲の喚起、④専門性の深化・向上、⑤自身のスキル（社会人基礎力・基礎的汎用的能力等）の見極め・向上、⑥企業の事業内容の理解促進、⑦就職後の定着率の向上等を挙げている。

インターンシップの意義を踏まえて、インターンシップを推進し実施していくためには、①から⑦の項目の一つひとつの中で不足している事柄について、キャリア演習Ⅲの授業で実施し、意欲向上につなげることが大切となる。

### 3-3 事前学習としてのキャリア演習Ⅲの位置づけ

インターンシップは、事前学習、事後学習を経てその成果と学生の成長が期待されている。本学部でも正課としてインターンシップを導入している。2017年度までに実施してきた選択科目でのインターンシップでは、事前学習・事後学習を含めて15回であった。夏学期に授業を受講後、学生が就業体験に参加していた。2018年度からは、3回生全員がインターンシップに参加するため2回生で新たに開講したキャリア演習科目での事前学習の場としての効果が期待されるとともに、事前授業での授業計画は今後も改善しながら進めていく必要がある。インターンシップに参加するまでの事前学習の期間で何を習得させ、どのようにインターンシップで成果を出すことができるか、また、その結果、学生には何を習得して将来のキャリア形成に活かしてほしいかについて、その流れを図2で示す。

キャリア演習Ⅲで事前学習の取り組みが十分に機能していると、インターンシップに参加した際の仕事理解や社会の仕組みを学ぶ良い機会となる。事前学習で特に重要なことは、学生が15回の授業に休まず出席することである。その結果として満足のいくインターンシップへの参加が期待でき、さらに学生の事後の変化に結び付く。インターンシップによる成長への期待は、学生が事前学習で得た知識や情報・自己学習の質の向上と育成にあると考える。

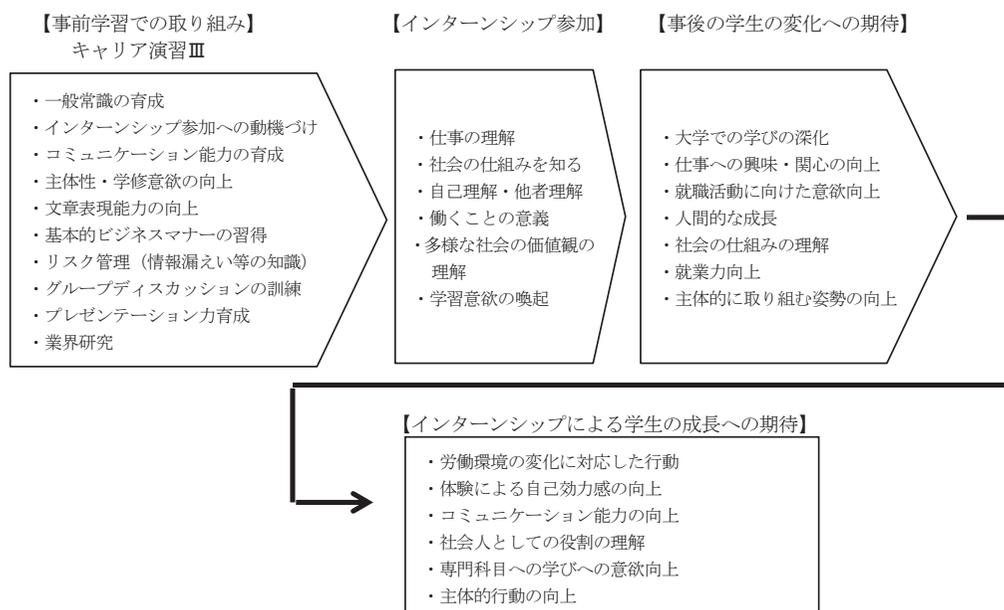


図2 インターンシップの取り組みによる効果と期待の流れ図

#### 4. 資格試験受験の導入について

インターンシップに参加した学生が、初日に受ける就業体験先の座学で学ぶ機会が多い内容の一つに、ビジネスマナーについての講義がある。しかし、このビジネスマナーについての知識は、一度座学で学んだだけでは理解はしたもののすぐ実践力につながらない場合が多い。その理由として、ビジネスマナーは、日々の業務の中で体験することによる経験値を積むことが大切であるからだ。就業体験は、わずか1週間から2週間の期間であり、その場ですぐに身に付くものではない。本学部では、学生が就業体験に参加する前の事前指導として、ビジネスマナーの指導も徹底しているが、指導した内容を学生に定着させたいと考える。

その対策の一つとして、学生が学んだビジネスマナーの知識の定着には、ビジネス系の検定試験の受験を導入し、習得結果についての理解度を測ることとした。検定試験の導入は、学生の質の向上を図る狙いもある。検定受験と資格取得後、就業体験をすることができれば最低限のビジネスの基本知識を理解しているため、就業体験での業務内容についての学びの幅が広がり、各自の成長を促す期間にすることが期待できる。

ビジネス系の資格試験は、公益財団法人実務技能検定試験協会が運営・実施している検定試験の受験を導入することで、次の3項目の知識を身に付けることを目的とした。①社会人として必要とされるスキルを身に付ける、②敬語や身だしなみ、マナー等ビジネスにおいて必要な知識の習得を図る、③一般常識を身に付ける、これらの知識習得はインターンシップでも役立つものである。

#### 4-1 ビジネス系検定試験の実際と教育効果

公益財団法人実務技能検定試験協会が運営・実施している検定試験には、現在「秘書検定」「ビジネス文書検定」「ビジネス実務マナー検定」「サービス接客検定」「ビジネス電話検定」がある。その中で、本学部の学生がインターンシップに参加する前に全員受験するのは、「ビジネス実務マナー検定」である。ビジネス実務マナー検定試験は、ビジネス社会に身を置いたときの身の処し方（マナー）について問う検定試験である。ビジネス社会で、規範を守る基となる礼儀や道德心等、秩序に従って行動できるようになることが大切で、その基礎知識についての理解度の確認をするための試験内容となっている。3級では、ビジネス社会の一員となった入社1年目の新人社員がどのように行動したらよいかについて、人間関係のマナーやルール、対人関係での話し方を理解しているか確認することができる問題となっている。

2017年11月に実施されたビジネス実務マナー検定の合格割合をみると、全体の約65%であった。その回に実施された「Ⅲ対人関係（実技）」の項目で出題された13問目にインターンシップについての問いが出題されていた。

##### 問 13

次は学生の速水健人が、企業でインターンシップをしたとき服装などについて気をつけたことである。中から不適當とも思われるものを一つ選びなさい。

- (1) 髪は明るめの茶色に染めていたので、事前に黒色に染め直した。
- (2) 就職用に購入したリクルートスーツとネクタイを着用した。
- (3) 昼食時にソースでワイシャツを汚してしまった日には、帰宅してからクリーニングに出した。
- (4) 朝、白色のソックスで家を出てしまった日には、コンビニでビジネスソックスを買ってはき替えた。
- (5) 夕方から大雨になる予報だった日には、帰宅時にぬれてもいようにジーンズとジャンパーで出社した。

この問題文で問われている内容は、インターンシップでの態度・振る舞いについてである。解説では、「インターンシップはビジネスの場でおこなわれるのであるから、その企業に合わせた服装にするのは当然であり、自分勝手な判断での出社は不適當である」となっている。実際の状況をイメージしながら、解答することができることも試験問題を解くメリットである。

また、「Ⅳ技能（実技）」問題では、新聞記事について出題されていた。問題文は、「日本で発行されている全国紙でないものは以下の中でどれか」という問いであった。学生には事前学習として常々指導しているのが、日課として新聞を読むことである。しかしながら、新聞に関しては、全国紙と地方紙の違いについての知識やそもそも新聞を読む習慣が身に付いていない学生も多い。「ネットで情報を得ることができるから、新聞を読む必要はない」と言い切る学生もいる。しかし、検定試験の問題を解きながら、新聞についての情報収集のメリットや読み方など関連知識について必要な情報を提供することもできるため、検定試験の問題内容一つひとつ

をもとに様々な知識の学びに結び付けることができる。また、検定試験の問題から学生に不足している情報を学生自身が得ることができることもインターンシップに向けた事前学習をする準備として有効な手段となる。

ビジネス実務マナー検定は、以上の過去問題の例で示した基本的な知識を解く問題と共に、物の数え方や敬語の遣い方、パソコンで使用する基本の用語等についても出題されており、ビジネスに必要な基本的な知識を身に付けることができる。

## 5. キャリア演習Ⅲの単位認定について

キャリア演習Ⅲでは、特に平常点での評価に重点を置いている。授業の受け方、入室時の帽子やコート等の着脱、挨拶の仕方等、大変細かい指導となるが、日常生活の少しの気遣いが常識の「ある」「なし」の違いにつながる。就業体験前である2回生の授業で指導ができる時期に、学生に基本的なマナーの周知徹底することを心掛けた。そのため、単位認定には、遅刻・欠席をした学生には、届け出用紙を作成し、その用紙に遅刻・欠席の理由を書いて提出させることも課し、細部にわたっての指導を徹底するように心がけた。インターンシップで就業体験をする場合、欠席はもちろんのこと、遅刻をすることは許されない。「わずか1分だから見逃して欲しい」等、授業が始まった時点では懇願してくる学生もいたが、すべて就業体験を前提に行動することの大切さを伝えることで理解を得た。

### 5-1 提出課題について

提出課題は、各自が準備したA4判フラットファイルに時系列にファイリングすることから始めた。課題プリントについては毎回提出を義務付け、提出した内容について一人ひとりの提出物をチェックしたうえで必ず返却した。最終日には、A4版フラットファイルに返却したすべての資料をファイリングして、まとめたものを提出すること義務づけた。

この授業では、検定対策補助教材として「ビジネス実務マナー検定受験ガイド3級」を使用して進めていった。しかし、このテキストはあくまでも検定対策用の使用テキストであり、インターンシップに関する教材として、最新の資料を毎回プリントアウトして学生に配付し、それらを時系列にきちんとファイリングする指導を行った。全員が配付した資料の整理・整頓をして、さらに最終日に全員提出をするという指導は、欠席が多い学生にとって難しい状況であったが、最終日にすべての資料をまとめて提出させることで、資料の管理・保管についてインターンシップでは大切なことであると理解を促し実践をした。

### 5-2 成績評価の基準について

評価の基準については、学生一人ひとりの提出物、出欠状況はもちろんであるが、授業での積極性や取り組みについても毎回の授業でチェックをした。授業内での取り組みの評価とは別に、課題を課し、それを次の週に提出することを義務づけ、提出されたものをループリックの評価一覧を作成し、それに沿って評価をすることで、キャリア演習Ⅲの履修者159名の学生の評価にぶれが生じることもなく成績評価をすることができた。

### 5-3 キャリア演習Ⅲ事後アンケート

キャリア演習Ⅲの授業では、最終日に記述式でアンケート調査を実施した。企業経営専攻は、3回生でインターンシップに参加する。公共経営専攻は、キャリア演習Ⅲは必修科目であるが、インターンシップに参加することが卒業単位に含まれていないため、両専攻の質問事項が若干異なっている。問1に関しては、同じ質問内容としており、問2～4は公共経営専攻への質問事項、問5～6は企業経営専攻への質問事項とした。

#### 問1 「キャリア演習Ⅲであなたが学んだことは」(企業経営専攻・公共経営専攻)

企業経営専攻	公共経営専攻
<ul style="list-style-type: none"> <li>・言葉遣いやマナー・礼儀の大切さ</li> <li>・ことば一つで相手への感じ方が違うので責任をもつて相手に伝えることの大切さ</li> <li>・お茶の出し方やお湯の温度</li> <li>・仕事はマニュアルどおりにはいかないという</li> <li>・冠婚葬祭について</li> <li>・社内・社外文書の書き方</li> <li>・ビジネス実務マナー検定の問題を通して、リアルな社会のことを学んだため、不安が軽減した。</li> <li>・DVDでの情報は現在のアルバイトにも大変役に立つ内容であった。</li> <li>・礼儀と社会に出てから大切になってくるマナー(普段の生活で意識して過ごしたい)</li> <li>・敬語の使い方、ビジネス文書の書き方、漢字の読み方</li> <li>・仕事ではコミュニケーションが大切であるということ</li> <li>・社会人として必要な言葉遣い、ルール、行動、話し方</li> <li>・封筒の表書き、丁寧に字を書くこと</li> <li>・礼状の書き方、席順、電話応対で使う丁寧な言葉づかい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会人として働いていくための必要な知識</li> <li>・コミュニケーションをするための言葉遣い</li> <li>・メールの書き方や名刺交換</li> <li>・社会へ出て行ってからのマナーや常識</li> <li>・電話応対での敬語の使い方</li> <li>・仕事をするということを真剣に考える時間になった</li> <li>・事務用品の正式名称</li> <li>・礼儀や言葉遣いに気を付けることの大切さ、そして、意識しながら礼儀や言葉遣いを身につける</li> <li>・マナーを意識した日々の生活、普段のだらしない生活を見直すきっかけ</li> <li>・当たり前のことを当たり前に行えるようになること(挨拶、入室時のマナー等)</li> <li>・社外文書・社外文書の決まりと敬語</li> <li>・社会のルールについて、あまり知らなかったのがこの授業で学べたこと</li> <li>・コミュニケーション能力と礼儀(今後不可欠なので今後もまだまだ学びたい)</li> <li>・質問の仕方、遅刻しそうなった時の伝え方</li> <li>・社会に出ていくときの心構え</li> <li>・仕事をする上での優先順位</li> </ul>

#### 問2 「キャリア演習Ⅲの授業で特に印象に残っている内容は」(公共経営専攻)

公共経営専攻
<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題への取り組み方、スケジュール管理をしっかりして計画を立てながら取り組むことの大切さ</li> <li>・順位をつけて仕事に取り組むこと、スケジュール管理の大切さ</li> <li>・ビジネス文書(社内・社外文書)の知識 ビジネス文書の書き方</li> <li>・電話応対での状況に合わせた対応の仕方</li> <li>・実際に公務員として働いていらっしゃる方からの講演</li> <li>・漠然としていた働くことのイメージが具体的になった</li> <li>・働く現場での暗黙の了解事項が分かったうえでルールを守って働くことの大切さ</li> <li>・ビジネス文書を書くうえで、ルールを守って丁寧に書くこと</li> <li>・遅刻に対しての厳しさ(当たり前のことを意識するきっかけになった)</li> <li>・担当教員と「敬語がなぜ必要か」との議論になったことで、必要性を理解し、敬語を意識するようになったこと</li> <li>・面接のDVDを観たことで公務員試験での面接を意識するようになったこと</li> <li>・ビジネスマナーぐらい知っていると思っていたが、授業の回数が進むにつれて知らないことが増えていったことに自分自身驚き、自分に対して残念に思い、このままではいけないと思ったこと</li> <li>・社会に出てすぐに環境に適應できるような人間になることの大切さ</li> </ul>

問3 「将来社会に出てどのような働き方をしたいか」(公共経営専攻)

公共経営専攻
<ul style="list-style-type: none"> <li>・公務員として働き、どのような改革をしていけばよいか考えながら仕事をしたい</li> <li>・多忙な毎日を送りたい</li> <li>・機転の利く働き方ができる人材になりたい</li> <li>・指示されたことをするだけでなく、常に自分で考えて行動できる人材として働きたい</li> <li>・地域住民にとって住みやすい街づくりを考えられる人材として働きたい</li> <li>・周りから信頼をしてもらえる人材になりたい</li> <li>・多くの人とかかわりを持ち、協力し合いながら働きたい</li> <li>・自分自身が成長していると実感できるような働き方をしたい</li> <li>・頼られる存在になるために、仕事をしながら少しずつ成長していくこと</li> <li>・マナーや礼儀も忘れずに行動できる人間</li> <li>・人の役に立つ仕事ことができる職場で働きたい</li> <li>・仕事にのめり込めるような働き方</li> <li>・目標が消防士であるため、現場に出て多くの人を救えるような仕事がしたい</li> <li>・自分の性格に合った無理のないところで働くこと</li> <li>・公務員として、地域の役に立ちたい</li> <li>・向上心を持ち続け、積極性のある行動を示せるように働きたい</li> <li>・安定した生活をするため</li> <li>・社会を甘く見ていたので、大学時代にしっかり社会の情報を得たうえで考えたい</li> <li>・マナーがしっかりできていて、誰からも頼られる人</li> <li>・できるだけ人の気持ちに立って考えられるような働き方をしたい</li> </ul>

問4 「働くとはあなたにとってどのようなことを意味するか」(公共経営専攻)

公共経営専攻
<ul style="list-style-type: none"> <li>・生きるため</li> <li>・周りの人を幸せにし、働くことが生きがいとなること</li> <li>・社会人としての自覚と責任をもって貢献できる人</li> <li>・義務であり、生活に欠かせないもので、収入を得ること</li> <li>・働くとは、成長を意味する</li> <li>・常に新しいことへの挑戦</li> <li>・日々挑戦して進化していけるような働き方をしたい</li> <li>・一日の大部分は職場で仕事することになるので、生活として実りあるものにしたい</li> <li>・職場は、社会との接点であり、常に新しいことへのチャレンジをする場所</li> <li>・働くとは試練であると思うが成長するために大切な場所</li> <li>・生活するうえで大切な場所であり、自分を成長させる最も大切な場所</li> <li>・一人で生活することができるようになるための場所</li> <li>・一刻も早く社会人の一員として働きたいという希望があり、働くことは憧れである。</li> <li>・働くという意味は、稼ぐという意味だと思う</li> <li>・生きていくうえで大切であり、生きがいのようなもの</li> <li>・働いて人の役に立つということが人生の生きる価値を上げる</li> <li>・働くということは、今後の自分の将来を担う大事なこと</li> <li>・社会での自分の役割を知ること</li> <li>・自分の生きる価値を示す場所</li> <li>・自分の両親に自分はここまで成長したということを証明できる場所</li> <li>・お互いに支え合い生きていく場所</li> <li>・現代の社会や世界を新たな未来へと変え、次世代に託せるようにするのが働くことを意味する</li> <li>・働くことは生きるために必要な場所で、自分の生き方を示す場所</li> </ul>

問5 「インターンシップに参加する際、どのような点に注意して参加したいか」(企業経営専攻)

企業経営専攻
<ul style="list-style-type: none"> <li>・嫌なことを顔に出さない</li> <li>・自分の行動の一つ一つについて、学校の代表としての意識をもって臨むこと</li> <li>・積極性を持って就業体験をすること</li> <li>・礼儀作法と言葉遣いに注意したい</li> </ul>

- ・ 人の話を集中して聞くこと
- ・ 受け身・消極的ではなく、自発的・積極的な行動をとるようにしたい
- ・ 職場での上下関係を理解して、言葉遣いに注意する
- ・ コミュニケーションがしっかりとれるようにする
- ・ ひげがすぐ生えるので気を付けたい
- ・ 遅刻・欠席をしないように
- ・ 忘れ物をしないように
- ・ 将来自分の希望している職種に就くために、現場で実践的なことを学び、多くの情報を得たい
- ・ 頭でわかっているけど行動が伴わないで失敗することが多いので、失敗を恐れず果敢にチャレンジしたい  
(昨年2年の時に行ったインターンシップ先での失敗を踏まえて)
- ・ 時間厳守と私語(気が緩んだ時の行動に注意したい)
- ・ 髪型・服装・言葉遣い・時間厳守の4点
- ・ 企業に迷惑をかけないように
- ・ 服装・挨拶・言葉遣い・座り方・返事・スマホの扱い方などの一つひとつに気を付けたい
- ・ 言葉遣い、ホウレンソウ、マナーに気を付ける
- ・ 第一印象と笑顔と共に、はきはきと答えること

問6 「インターンシップ先では、どのようなことを学びたいか」(企業経営専攻)

企業経営
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 特に接客について学びたい → アルバイトで接客業</li> <li>・ 具体的には決まっていないが、今後活かせるような場所で、社会人として何を求められているかを知り、それを実行できるようになること</li> <li>・ 自分の引き出しを増やす機会にしたい</li> <li>・ 知る=自分の成長を目指したい</li> <li>・ 会社のルールに従って働くことがどのようなことかを体験してみたい</li> <li>・ 企業理解と視野を広げること</li> <li>・ 仕事の一日の流れを学びたい</li> <li>・ 社員の方たちの立ち居振る舞いは学生とどう違うのか</li> <li>・ 内部事情やしきたりなど外部から見てもわからないことを体験したい</li> <li>・ 仕事を効率よく行うための情報(アルバイト先では、効率よくできずに悩んでいるから)</li> <li>・ 営業の仕事におけるコミュニケーション力を高める方法</li> <li>・ その会社の企業理念などが自分に合っているか、社会での働き方はどのようなものか</li> <li>・ 職場での上司と部下の関係性を肌で感じてみたい</li> <li>・ 企業での社会への貢献度</li> <li>・ 将来自分がやりがいを感じられる仕事に就くための考える時間になりたい</li> <li>・ 職場の雰囲気や対人関係</li> <li>・ なるべく多くの体験をして、より多くの情報を得たい</li> <li>・ 意欲的に取り組んでいきたい</li> <li>・ どのような職種が自分に合っているのかを知るため</li> <li>・ 仕事の流れを知りたい</li> <li>・ どのような人材が企業では必要な人材として受け入れてくれるのか</li> <li>・ 自分の現在の知識や考え方で足りないところを知るための機会としたい</li> <li>・ 会社の特徴や他の企業と比べてその企業がどのような職場なのか知りたい</li> <li>・ 自分の成長につなげ、自分の興味関心の方向性を知りたい</li> <li>・ ホウレンソウの大切さ、将来に役に立つことを少しでも学ぶ機会にしたい</li> <li>・ 社会人としての在り方</li> <li>・ 現在の自分の知識・行動がどこまで通用するか</li> <li>・ 基本的なマナーや言葉遣いの実際と、社内での仕事の流れについて</li> <li>・ アルバイトはしているが、働くこととアルバイトの違い</li> </ul>

キャリア演習Ⅲの授業を受講したことで、それぞれにインターンシップへの思いや社会に出ることへの意気込みが伝わってくる内容であった。学生一人ひとりがそれぞれの立場で、今後どのような振る舞いや態度で就業体験に向き合い、それを自分の将来のキャリアにつなげるかについて、主体的に考える時間としての効果は十分にあったと考えられる。

3回生になると「インターンシップⅠ」の授業が始まり、夏季休暇中には就業体験の場で社

会体験が本格的に始まる。その前の事前学習の効果は、学生が記述したアンケート調査結果に表れている。

## まとめ

インターンシップのプログラムに向けた関連科目であり必修科目であるキャリア演習Ⅲは、事前学習のスタートとなる科目である。この授業は2回生冬学期に開講され、15回の授業のなかで、インターンシップについての基本的な情報提供を行うとともに、基本的なマナーや知識の習得に向けての授業内容とした。

今後インターンシップが正規の教育課程として推進される中、事前学習も重要な役割として推進される。2018年度に新たに創設された届出制度では、教育的効果の高いインターンシップを実施していることを社会に向けて広く発信・アピールをすることが必要である。全国の大学等で取り組んでいるインターンシップの実際の取り組み内容について届出をおこない「学修の進化や学習意欲の喚起、職業意識の醸成」としての明確な教育活動としての役割をインターンシップに求めている。

キャリア演習Ⅲで実施した授業での取り組み内容は、アンケート調査結果からも学生への学習意欲の向上に役立ち、明確なキャリア教育の一環としての位置づけで、スタートすることができた。

今後は、企業のインターンシップの実施状況を確認しつつ、インターンシップの事前学習としてのキャリア演習Ⅲの授業内容を進化させていくと共に、事前学習についての方向性について学生の動向を調査し、次稿で引き続き論じることとする。

---

## 【引用・参考文献】

金岡敬子（2017）「キャリア教育科目におけるインターンシップの教育効果に関する一考察」四天王寺大学紀要 第64号

金岡敬子（2018）「インターンシップによる人材育成の現状と課題」四天王寺大学紀要 第65号

公益財団法人実務技能検定協会編（2017）「ビジネス実務マナー検定受験ガイド3級」

文部科学省・厚生労働省・経済産業省（2014）「インターンシップの推進に当たっての基本的考え方」[http://www.meti.go.jp/policy/economy/jinzai/intern/sanshou\\_kangaekata.pdf](http://www.meti.go.jp/policy/economy/jinzai/intern/sanshou_kangaekata.pdf) 2018/3/17 アクセス

文部科学省（2011）「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について（答申）」中央教育審議会

[www.mext.go.jp/component/b\\_menu/shingi/toushin/\\_icsFiles/afieldfile/2011/02/01/1301878\\_1\\_1.pdf](http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2011/02/01/1301878_1_1.pdf) 2018/3/17 アクセス

文部科学省（2012）「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～（答申）中央教育審議会」

[http://www.mext.go.jp/component/b\\_menu/shingi/toushin/\\_icsFiles/afieldfile/2012/10/04/1325048\\_1.pdf](http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2012/10/04/1325048_1.pdf) 2018/3/17 アクセス

文部科学省（2016）「インターンシップの拡大に向けた施策について」

[http://www.jasso.go.jp/gakusei/career/event/senmonjinzai/\\_\\_\\_icsFiles/afieldfile/2017/01/12/01\\_internshipws\\_kansai\\_monkashou.pdf](http://www.jasso.go.jp/gakusei/career/event/senmonjinzai/___icsFiles/afieldfile/2017/01/12/01_internshipws_kansai_monkashou.pdf) 2018/3/17 アクセス

文部科学省（2017）「インターンシップのさらなる充実に向けて議論の取りまとめ」高等教育局専門教育課

[http://www.jasso.go.jp/gakusei/career/event/guidance/\\_\\_\\_icsFiles/afieldfile/2017/06/30/02\\_h29guidance\\_monkasyou\\_senmon.pdf](http://www.jasso.go.jp/gakusei/career/event/guidance/___icsFiles/afieldfile/2017/06/30/02_h29guidance_monkasyou_senmon.pdf) 2018/3/17 アクセス

文部科学省（2017）「インターンシップのさらなる充実に向けて（インターンシップの推進等に関する調査研究協力者会議 議論の取りまとめ（案）」

[www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chousa/koutou/076/gijiroku/\\_\\_\\_icsFiles/afieldfile/2017/05/19/1385991\\_002.pdf](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/076/gijiroku/___icsFiles/afieldfile/2017/05/19/1385991_002.pdf) 2018/3/17 アクセス

